

夏休みを前にして

山口 恒

奨励者紹介〔やまぐち・ひさし〕

日本キリスト教団浪花教会牧師

「ところで、あなたたちはどう思うか。ある人に息子が二人いたが、彼は兄のところへ行き、『子よ、今日、ぶどう園へ行って働きなさい』と言った。兄は『いやです』と答えたが、後で考え直して出かけた。弟のところへも行って、同じことを言うと、弟は『お父さん、承知しました』と答えたが、出かけなかった。この二人のうち、どちらが父親の望みどおりにしたか。」彼らが「兄の方です」と言うと、イエスは言われた。「はっきり言うておく。徴税人や娼婦たちの方が、あなたたちより先に神の国に入るだろう。なぜなら、ヨハネが来て義の道を示したのに、あなたたちは彼を信ぜず、徴税人や娼婦たちは信じたからだ。あなたたちはそれを見ても、後で考え直して彼を信じようとしなかった。」

(マタイによる福音書 21章28—32節)

皆さん、こんにちは。私は浪花教会の山口恒です。浪花教会は、電車の駅で言いますと淀屋橋駅と北浜駅の間にある教会です。浪花教会は今年140周年を迎え、会堂は築87年目を迎えました。今も、ほぼ建てられた当時のままの礼拝堂で毎週木曜日と日曜日に礼拝をしています。

私は2009年に同志社大学大学院神学研究科(前期課程)に入学しました。

私が神学研究科に入学して最初の年、ちょうど今頃だったと思うのですが、私は一人で御所へお昼ご飯を食べに行きました。その日のお昼ご飯は、家の近所のスーパーで買ったパンでした。スーパーでは夕方になりますと、よく値引きのシールが貼られます。前日に、私が翌日のお昼ご飯のために買ったそのパンの袋には「半額」のシールが貼ってありました。私は、このクラーク記念館から近い同志社大学の正門を出て、横断歩道を渡って、御所の門をとおってしばらく歩いた所にあるベンチに座りました。そして私は半額のシールが貼ってあるパンの袋を開けて一口食べ、入学してからのことをいろいろ思い出しました。前を見ると、御所が見えます。そして広い夏の青空が広がっています。そんな美しい景色を眺めながら、私は自分が入学してからの4カ月間のことを思い出しました。入学式でとても緊張したこと、4月から7月まであっという間だったこと、想像していた以上に授業が難しかったこと、友だちが授業の履修のことをとても親切に教えてくれたことなど、私はゆっくりと思い出すことができました。「4カ月間いろいろあったなあ、これから自分なりにだけれども勉強を頑張ってみよう」。私はベンチに座り、半額のシールが貼ってあるパンをかじりながら、本当に落ち着いて、いろいろなことを振り返り、気持ちを新しくすることができました。

そうしましたら、どこからか「ピーピロピロ～」という鳥の声が聞こえてきたのです。「どっかで聞いたことのある鳥の鳴き声やな～」「ピーピロピロ～」「御所で鳥の鳴き声を聞きながらお昼ご飯なんて、贅沢やな～」「ピーピロピロ～」、私が心の中で、そうつぶやいてボーッとしていた時、突然バサッという音がして、

私が持っていた半額のシールが貼ってあるパンを鳥が取って行ったのです。その「ピーピロピロ〜」の鳴き声はトンビでした。

トンビの仕事って本当にスゴイです。私の手の甲にほんの少しの引っ掻き傷があるだけで、トンビは確実に獲物のパンを掴み取って飛んで行きました。さすがのトンビも、半額のシールには気づかなかったはずですが、そのトンビは獲物のパンを両足でしっかりと掴んで飛んで行きました。

私は一体何が起きたのか分からず、半額のシールの貼ってあるパンを掴みながら空を駆け上がって飛んで行くそのトンビの姿を眺めていました。そうしましたら、今度はトンビが掴んでいたそのパンの袋からパンだけが下に落ちてしまったのです。そしてなんと、その地面に落ちたパンを今度はすかさず大きなカラスがくわえて飛んで行ってしまいました。

私の人生経験が浅すぎたからかもしれませんが、私は目の前で起こった出来事を受け入れるのに少し時間がかかりました。私は、少しだけかすり傷を負った自分の手の甲をなでながら考えさせられました。それまで自分が手にしていた半額のシールが貼ってあるパンの所有権が、一瞬にして私からトンビに移り、そして一瞬にしてトンビからカラスに移ったことを目の当たりにして、本当にさまざまなことを思わされました。「今、自分の目の前で起こっていることは何なのか・・・」「これは今の私にとってどのような意味があるのだろうか」。私は、広い夏の青空の下でゆっくりと時間をかけて考えることができました。

人には「考える時間」というものが絶対に必要です。しかし、慌ただしい日々を過ごしますと、そんな「考える時間」がありません。ここにおられる皆さんも、毎日とてもお忙しくされているのではないのでしょうか。授業があって、バイトもあって、友だちとも遊ばなければいけません。特に、最近の学生さんはとてもお忙しいと聞いています。しかし忙しいなら、なおさら「考える時間」というものが必要だと思います。

先ほど読んでいただいた聖書箇所にはこう書いてあります。

「ところで、あなたたちはどう思うか。ある人に息子が二人いたが、彼は兄のところへ行き、『子よ、今日、ぶどう園へ行って働きなさい』と言った。兄は『いやです』と答えたが、後で考え直して出かけた」。

この兄は、父から言われたことに「いやです」と答えたものの、後で考え直しました。この兄に一体、何があったのでしょうか。この兄には「考え直す時間」が与えられたのだと思います。この兄には「考え直す時間」が与えられて、この兄は考え直してぶどう園へ行きました。

私たちに足りないもの、それは考える時間ではないでしょうか。私たちは生活の中のさまざまな場面で、その時その時でさまざまな選択をします。こうしよう、ああしよう、次々にいろいろなことを決めていかなければなりません。しかし、慌ただしい日々を過ごしますと、自分のしたことや自分が選んだことを、立ち止まって思い返す時間があるようでないと思います。

皆さん、8月の月上旬にテストがある方もいらっしゃると思いますが、もうすぐ夏休みだと思います。皆さん、夏休みの予定はもう決めましたでしょうか。私も8月21日から1週間お休みをいただくことになっています。今のところ特に予定もありませんが、夏休みには予定をぎっしり入れないで、ちょっとゆっくり今までのことや、今、目の前にあるいろいろなことについて考える日を作りたいなと思っています。近くの公園にコーヒーとドーナツを持って行って、ベンチに座って、空を見上げてトンビがいないのを確認してから、いろいろと考えてみようと思います。広い夏の青空の下で、ゆっくり「今までのこと」や「今、現在のこと」を考える時間を持ちたいと思っています。

「学生さんは時間がある」ように言われるかもしれません。しかし、学生さんはとても忙しい毎日を送っておられると思います。そこで今回の夏休みを前に、皆さんにお勧めしたいことがあります。夏休みに毎日予定をびっしりと入れるというのもよいかもしれませんが、この夏休みに1日ゆっくり考えごとをする時間を過ごしてみてもいかがでしょうか。そしてその時間に、いろいろと今までのことを振り返ってみたり、今、自分の目の前で起こっていることが何を意味するのかを考える時間を過ごしてみられるのはいかがでしょうか。その時に、聖書の言葉を思い出す時があれば、聖書に出てくる人と自分とを重ねてみてもよいかもしれません。その時、もしかするとこの兄のように「考え直す」ことがあるかもしれません。

2017年7月26日 今出川水曜チャペル・アワー「奨励」記録